

I. 平成29年度学力検査の全体的状況と説明

1. 全体出題方針

- ・ 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に則して出題した。
- ・ 中学校における日常の学習とその成果をみることができるようにした。
- ・ 各教科とも知識、技能とともに、思考力・判断力・表現力等を十分みることができるようにした。

2. 受験者の学力検査点の状況

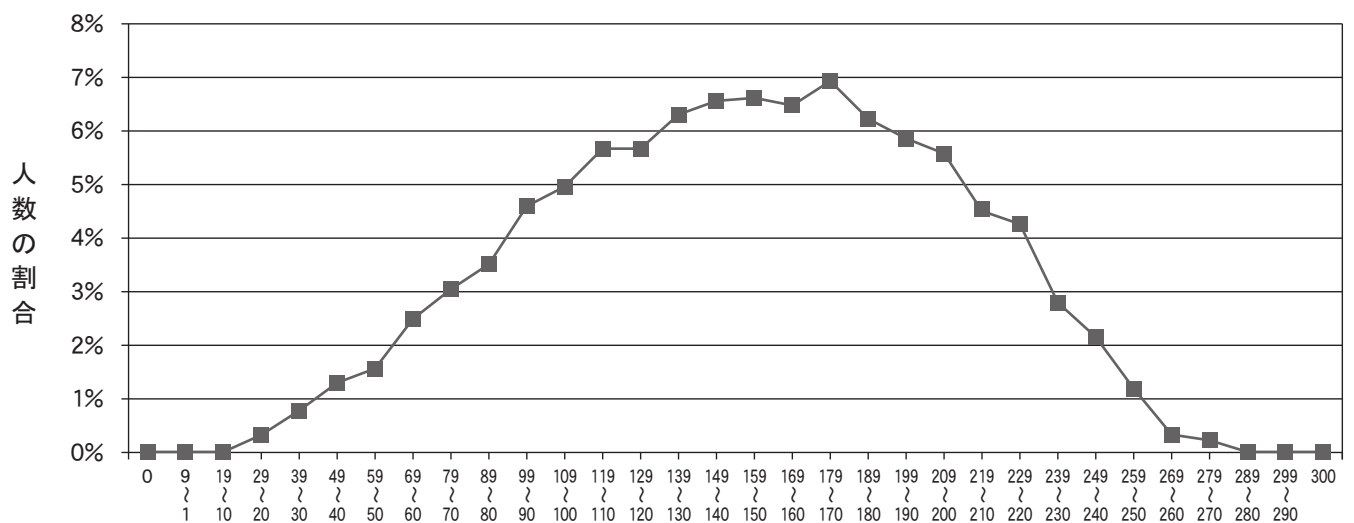
平成29年度学力検査結果

合計点	0	9	19	29	39	49	59	69	79	89	99	109	119	129	139	149	159	169	179	189	199	209	219	229	239	249	259	269	279	289	299	300
人数	0	0	1	22	55	93	112	178	217	252	329	354	405	406	453	470	473	463	497	445	419	399	324	305	199	154	84	22	16	0	0	0
割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	1.3	1.6	2.5	3.0	3.5	4.6	5.0	5.7	5.7	6.3	6.6	6.6	6.5	7.0	6.2	5.9	5.6	4.5	4.3	2.8	2.2	1.2	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0

- ・ 学力検査合計の平均点は、152.6点（300点満点）であった。最高点は278点、最低点は17点であった。
- ・ 学力検査合計平均点は、300点満点換算で、過去5年間で一番高い（平成26年度は138.4点、平成25年度は144.2点）。

参 考	平成28年度 学力検査合計平均点（300点満点）	134.8 点
	平成27年度 学力検査合計平均点（300点満点）	143.7 点
	平成26年度 学力検査合計平均点（250点満点）	115.3 点
	平成25年度 学力検査合計平均点（250点満点）	120.2 点

学力検査合計の分布状況



得点分布

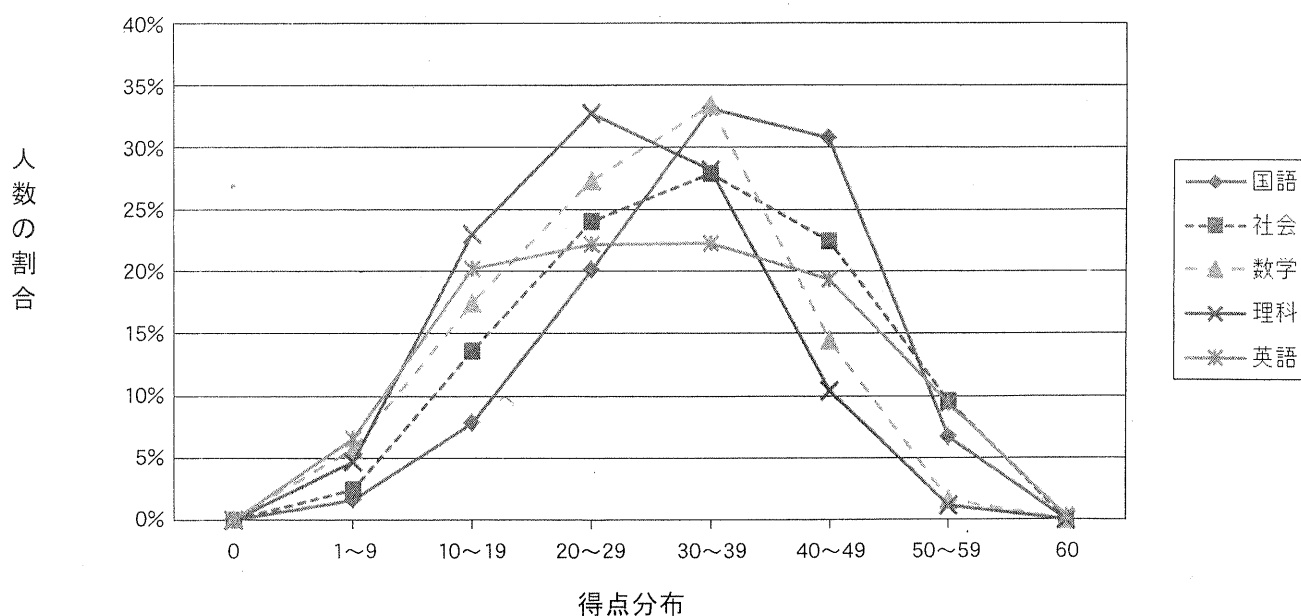
3. 教科別学力検査点の状況

教科 \ 得点	0	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60	平均点	最高点	最低点
国語	0 (0.0)	113 (1.6)	557 (7.8)	1439 (20.1)	2364 (33.1)	2198 (30.8)	476 (6.7)	0 (0.0)	34.9	58	2
社会	1 (0.0)	177 (2.5)	970 (13.6)	1715 (24.0)	1994 (27.9)	1604 (22.4)	683 (9.6)	3 (0.0)	32.8	60	0
数学	5 (0.1)	406 (5.7)	1250 (17.5)	1950 (27.3)	2387 (33.4)	1037 (14.5)	111 (1.6)	1 (0.0)	28.4	60	0
理科	0 (0.0)	333 (4.7)	1644 (23.0)	2339 (32.7)	2009 (28.1)	745 (10.4)	77 (1.1)	0 (0.0)	26.4	58	1
英語	3 (0.0)	474 (6.6)	1443 (20.2)	1578 (22.1)	1584 (22.2)	1376 (19.3)	671 (9.4)	18 (0.3)	30.1	60	0

()内は割合 (%)

- ・教科ごとの平均点の最高点と最低点の差は 8.5 点 (国語 34.9、理科 26.4) となっている。
- ・数学・理科・英語において、得点が一桁台の生徒が多く見られる。

教科別学力検査点の分布状況



Ⅱ. 各教科ごとの出題方針

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、中学生の実態にあった素材を広く求め、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の総合的な力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。特に、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力を十分みるようにした。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字、書写に関して、その基礎的・基本的な力をみるとともに、新聞作成の場面を設定し、話し合いにおける発言の共通点や相違点をとらえる力や説得力のある文章にするために必要な資料を選ぶ力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的文章 流鏑馬に挑戦することに不安を抱く少年が、自分の価値観を揺さぶられながら、新たな目標に向き合う姿を描いた文章により、登場人物の言動や心情、描写の効果について考える力をみるとともに、作品理解を深めるための調べ学習の場面を設定し、情報を読み取る力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的文章 人によりよく言葉を伝えるにはどのようにしたらよいか、人が話を最後まで聴くのはどのような状況かについて述べた文章により、その論理の展開を的確にとらえたり、具体例をメモに整理したりして筆者の主張を理解する力や、筆者の表現上の工夫について考える力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 巧みな弁舌を用いた売主とそれに乗せられた買主とのやりとりを描いた物語により、古典の基礎的・基本的な力をみるとともに、四コマ漫画を作成する場面を設定し、内容を的確に理解する力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 インタビュー記事をもとにして、聞き手の意図やインタビューの展開についての的確にとらえる力をみるとともに、場面や対象に応じた適切な話の展開について他者にアドバイスをする場面を設定し、自分の考えを適切に書く力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識・技能及び思考力・判断力・表現力などの諸能力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>各分野の主な出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 【1】では、世界の諸地域を題材に出題した。赤道と本初子午線の位置やアフリカの環境問題、時差などの問いで知識・技能を、アジアの宗教分布や中国の経済的問題についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p> <p>【2】では、日本の諸地域を題材に出題した。九州地方のシラス台地や東北地方の冷害、北海道地方の地形図などの問いで知識・技能を、中部地方の農業や関東地方の工業についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 【3】では、古代から近世の歴史を題材に出題した。古代の文化や奈良時代の国際交流、室町時代の碑文などの問いで知識・技能を、平安時代の摂関政治や江戸時代の財政改革についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p> <p>【4】では、近現代の歴史を題材に出題した。明治時代の政治や大正時代の文化、世界恐慌時の経済政策などの問いで知識・技能を、幕末の物価や明治時代の国際関係についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 【5】では、日本の政治・経済と国際社会を題材に出題した。災害対策や累進課税、裁判のしくみなどの問いで知識・技能を、地域機構や三権分立についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p> <p>【6】では、身近な社会を題材に出題した。産業の空洞化や社会保障制度、日本の労働問題などの問いで知識・技能を、高度経済成長期の人口変化についての問いで思考力・判断力・表現力をみるようにした。</p>

<p style="text-align: center;">数 学</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び技能をみるとともに、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、数学的な思考力・判断力・表現力をみるため、事柄を調べる方法や手順、見いだした事実や事柄が成り立つ理由を記述させることなどにも配慮した。</p> <p>また、各領域の内容や考え方などを総合的に関連付けて考察する力などもみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式について、数や文字式の四則計算、一次方程式、二次方程式、連立方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び計算力などをみるようにした。</p> <p>また、各分野において、文字式や方程式を用いて表現し、処理する力などもみるようにした。</p> <p>(2) 図形について、相似な図形の性質、三平方の定理の利用などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、平面及び空間図形についての基礎的な概念や性質を活用する力をみるようにした。</p> <p>また、証明などを通して、論理的な思考力をみるとともに、基礎的・基本的な知識を活用して、総合的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数について、比例と反比例、一次関数、関数$y = ax^2$などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、身近な事象などをグラフを活用して数学的に考察し、表現する力をみるようにした。</p> <p>(4) 資料の活用について、代表値の基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、提示された資料を適切に判断する力をみるようにした。</p> <p>また、確率の分野では、確率の意味やその求め方に関する基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、樹形図などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、観察・実験の技能、科学的な思考力・表現力など理科としての総合力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、観察・実験の結果を分析して解釈する力や文章、図、グラフ等によって表現する力を十分にみるようにした。</p> <p>分野・領域別にみた出題の主なねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 物理的領域では、ばねにはたらく力とおもりの質量の関係を調べる実験を通して、ばねののびとおもりの質量の規則性を見だし、それを活用し考察する力をみるようにした。また、電流回路についての実験を通して、電流と電圧との関係の理解とともに、日常生活に関連付けて思考をはたかせる力をみるようにした。</p> <p>(2) 化学的領域では、金属の酸化や還元の実験を通して、基礎的・基本的な知識や技能とともに、グラフを作成する力や量的関係について分析し解釈する力をみるようにした。また、電解質水溶液と金属板を用いて電流をとり出す実験を通して、物質の変化やその量的関係を電子の移動と関連付けて考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 生物的領域では、植物のふえ方についての観察や調べ学習を通して、遺伝の規則性を見いだしたり、植物の種子の形状と自然環境を関連付けて考察したりする力をみるようにした。また、被子植物のからだのつくりの観察を通して、根、茎の基本的な特徴を見いだすとともに、光合成に関連付けてとらえる力をみるようにした。</p> <p>(4) 地学的領域では、身近な気象の観測や調べ学習を通して、気象現象が起こる仕組みと規則性について、図や表で示されたデータをもとに分析し解釈する力をみるようにした。また、火成岩のつくりの観察を通して、組織の違いを成因と関連付けて考察し、論理的に説明する力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な英語の理解力、表現力及びコミュニケーション能力を十分みることをねらいとした。出題に当たっては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたかかせてまとまりのある文章を理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。特に、表現力の問題については、場面や対話の流れを理解して、英語で適切に応答したり、与えられた情報をもとに自分の考えを英語で相手に伝えたりするなど、コミュニケーションの視点から多様な出題となるように工夫した。題材としては、「運動公園の開園式典」、「部活動紹介」、「環境問題について」、「文化祭を通しての友情の深まり」などの話題を取り上げた。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域</p> <p>【1】では、短い対話の内容を正確に聞き取るとともに、それに対して適切に応答する力、まとまりのある英語を聞いて具体的な内容や要点を聞き取る力などをみることをねらいとした。</p> <p>(2) 「書くこと」、「話すこと」の領域</p> <p>【2】では、対話文や話の内容を正しく理解したうえで、場面に応じて適切に表現する力、必要な情報を判断し英語で伝える力などをみることをねらいとした。</p> <p>【3】(1)では、4コマの絵をもとに場面に適する発話の内容を考え、英語で表現する力、(2)では、対話の流れを的確に理解し、それに対して自分の考えを英語で適切に表現する力、(3)では、外国の友人からの問いに対する答えと、その理由となる自分の考えを英語で適切に表現する力をみることをねらいとした。</p> <p>(3) 「読むこと」の領域</p> <p>【4】では、ポスターセッションの内容・要点を英文、グラフからの情報をもとに的確に読み取る力などをみることをねらいとした。</p> <p>【5】では、物語文の概要をとらえ、物語の流れや前後関係から判断して、登場人物の気持ちや行動を正しく読み取る力などをみることをねらいとした。</p>

Ⅲ. 各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点				特記事項 (誤答例等)		
				A	B	C	D			
【一】	問一	(1)	75.9					・訓読漢字について正答率が低い傾向が見られる。「甚だしい」を「はだは(だしい)」「はなた(だしい)」と解答しているものが散見される。教科書を読むことや多様な文章に触れることで、漢字の読みの習熟と応用を図るとともに語彙を豊かにする指導の充実が求められる。		
		(2)	33.3							
		(3)	70.9							
		(4)	44.4							
		(5)	60.7							
	問二	行書の知識	87.8				○	・漢字の行書の基礎的な書き方は概ね身に付いている。		
【一】	問三	(1) I	68.1	○				・話し合いの際に、相違点を分かりやすく示したり意見の内容を簡潔にまとめたりするように指導することが必要である。		
		II	40.0				○			
	(2)	必要な情報の選択	72.7		○			・根拠の妥当性について意見を述べ合う学習活動が効果的である。		
【二】	問一	心情の理解	56.4				○	・文学的な文章について、時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進めていく力をさらに高める必要がある。叙述に即して内容を捉えた上で、登場人物の心情などを考え、朗読の仕方を工夫して実際に声に出して読んだり、読み方の工夫やその理由について意見を交流したりする学習活動は、読みを深めていくことに繋がると考えられる。 ・文章の読みを深めるには学校図書館等で他の資料を集めて参考にする学習活動も効果的である。その際、疑問に照らして、必要な情報が何であるかを主体的に考えさせる指導が必要である。		
	問二	(1)	心情の理解	3点 30.6 2点 0.4 1点 0.0					○	
			(2)	心情の理解	3点 17.6 2点 36.1 1点 7.5		○		○	
				内容の理解	59.5					○
	問四	内容の理解	84.9						○	
【三】	問一	内容の理解	83.9					・書き手の論の展開の仕方を理解して内容を的確に把握する力を高める必要がある。文章中の具体例や引用した部分などの付加的な情報を整理し、それらが文章の中心的な部分をどのように支えているのかについて考える学習活動が効果的である。 ・問二の(1)、問三では、解答の要素が不足しているもの、要素間の因果関係が適切でないもの、具体例に用いられた語句をそのまま使用したものが多数みられた。段落相互の関係を検討してキーワードを抜き出し、それらの関係を整理して文章の内容を読み取ることを通して、要旨を捉える力を育成することが求められる。 ・説明の仕方など表現の特徴を捉える力を高めるには、主張に基づく具体例や根拠の示し方などの表現の工夫について、書き手の意図やその効果を考える学習活動が効果的である。		
	問二	(1)	内容の理解	4点 3.5 3点 39.4 2点 12.0 1点 16.4					○	
			(2)	内容の理解	2点 12.3 1点 11.9		○		○	
				内容の理解	4点 0.0 3点 5.5 2点 11.7 1点 9.7		○		○	
	問四	内容の理解	63.2						○	
【四】	問一	歴史的仮名遣いの知識	79.8					・古典では、生徒が身に付けている知識を生かせる場面を設定し、古典への興味・関心を深めることが大切である。 ・文語のきまりを知り、音読することを通して古典特有のリズムを味わわせる必要がある。 ・問二の(1)では、「牛」を主語としない解答が散見される。古文を読む際には、主語を常に意識させることが重要である。 ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、口語訳等を参考にして文章全体の趣旨を的確に捉える力を高める必要がある。		
	問二	(1)	内容の理解	3点 55.0 2点 9.0 1点 1.1					○	
			(2)	内容の理解	3点 48.7 2点 6.4 1点 1.5					○
				(3)	内容の理解	75.7				
【五】	問一	質問の意図	63.1	○				・「話すこと・聞くこと」の指導においては、必要な情報を収集、分類、整理して、根拠を明確にして自分の考えを説明したり、主張や根拠などに注意して聞き、相手の話の要点を捉えたりする力をさらに高めることが求められる。 ・問一の結果を踏まえ、相手の話を的確に聞き、話の展開や答えた内容に応じて、相手の言いたいことを確認したり、さらに知りたい情報について聞いたりするなど、明確な意図をもって質問をすることができるよう具体的な場面を設定して指導することが求められる。		
	問二	話の構成	81.8	○						
	問三	表現	表現	6点 23.5 5点 14.3 4点 17.7 3点 10.5 2点 10.8 1点 3.9 無解答 7.0					○	
									○	
									○	
							○			

【評価の観点】 A：話す・聞く能力 B：書く能力 C：読む能力 D：言語についての知識・理解・技能

2. 知識・技能について

- ① 漢字は、常用漢字の音訓について一字一字を正確に読み書きできるようにすることに加え、文脈の中で適切に使えるようにすることが大切である。**既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れる**ことが大切である。また、同音の漢字や形が似た漢字など、間違えやすい漢字に注意するように指導することが必要である。
- ② 社会生活や各教科での学習活動に役立てられるよう、話し合い等についてより実践的な学習をすることが求められる。話し合いでは、**目的や場面に応じて、話題や方向を捉えて話し合ったり、互いの発言を検討して発言の共通点や相違点を明確にしたりする**ことが重要である。また、建設的な話し合いや一定時間内での合意形成のためには**提案の趣旨や理由を明確にしつつ、目的に沿って話し合いを進行する**ことも大切である。いくつかの異なる意見が出るようなテーマを設定し、全体で意見を述べる前に自分の考えを形成する時間を十分に確保した上で意見を述べ合う学習活動により、生徒の「話す・聞く」能力の向上を図ることが必要である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

文章の内容をインターネットを利用して詳しく調べる場面で情報を適切に読み取る問題、文章の内容をメモや四コマ漫画にまとめる問題、インタビュー記事を素材として、聞き手の意図や話の展開を捉える問題、プレゼンテーションの展開に関して自分の意見を表現する問題など、知識・技能等を実生活の場面に活用する力や課題解決のための構想を立てる力などをみる問いを出題した。

その中で、【五】問三は、「大分県を訪れる外国人に温泉を紹介する」級友に対して、自分ならどのようにアドバイスをするかを具体的に表現することを求めた設問である。

スピーチでは、目的や相手、時間などの条件に応じて、必要な情報を収集、整理して自分の考えが効果的に相手に伝えられるよう内容を組み立てる必要がある。また、聞き手に分かりやすく話すには、リハーサルなどを通して相互に助言する中で修正を加えていくことが重要であり、その際、なぜそのように修正するのかという理由を明らかにし、分かりやすく説明することが必要である。

この設問では、「順序をどのように改めるかのアドバイス」を具体的に述べることを求めているため、受験者は表現する目的と相手に留意しつつ、自分の考えを根拠とともに述べることとなる。三つの「コメントとフリップの内容」に示される情報を読み取る力、相互の関連性を捉える力、論理の展開を考える力をみることのできる設問である。

(2) 解答結果とその分析

検査の結果については、平均得点率が56.7% (H28表現問題:32.1%) であり、無解答率は7.0% (H28表現問題:8.6%) であった。

正答は、設問に応じて級友にアドバイスをする立場に立ち、前半で、順番をどのように改めるのかを具体的に述べ、後半で、そのように改める理由を外国人に紹介する場面であるという設定を踏まえて述べているものとした。誤答についてみると、変更することで生まれる効果についての言及のないもの、変更した順序とその理由が整合していないものがみられた。また、場面、目的、対象を踏まえていない誤答もみられた。

今年度の平均得点率の上昇は、身近な郷土の素材が用いられていたからであろう。無解答率が減少傾向にあることは、小・中学校を通して「書くこと」の指導の充実が図られている成果だと捉えられる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校3年間における「書くこと」及び「話すこと・聞くこと」の指導のさらなる充実が求められる。指導に際しては、生徒の発達段階に応じて**話題や課題を日常生活から社会生活へと広げながら、様々なものに目を向けさせる**ことが必要である。また、**目的や意図、多様な場面や状況に応じて材料を整理し、表現や語句を選択して自分の考えを適切に表現する学習活動を充実させる**ことにより、社会生活で生きて働く言語能力を育成することが求められる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

中学校から高等学校まで一貫して生徒の言語能力を育成する観点から、生徒の実態を的確に把握し、**義務教育段階での学習内容の確実な定着**を図るとともに、中学校学習指導要領に示される指導事項及び言語活動について理解し、思考力・判断力・表現力等の育成をいっそう進めるための**指導計画の設定、授業展開の工夫**を行うことが大切である。

特に、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については、**指導のねらいを明確にした年間の指導と評価の計画に基づいて計画的、系統的に指導**することが求められる。材料を収集する方法やそれを選択する力を身に付けること、**適切な表現の仕方や論理の構成、展開により自らの考えを相手に納得させ、同意や共感を得ること、相手の立場を尊重した対話や交流によって合意を形成したり、思考の深化を図ったりすること**など、社会人として必要な国語の能力の基礎を確実に育成することが必要である。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項(誤答例等)
				A	B	C	
【1】	(1)	① アフリカ州の経緯線	69.5		○		(1)赤道と本初子午線については、大まかな世界地図を描かせる際の基準として、その位置を理解させることが必要である。 (2)宗教については、その分布を理解させるとともに、生活とのかかわりに着目させることが効果的である。 (3)(4)諸地域の特色や課題については、複数の要素を関連付けて考えさせることが効果的である。 (5)時差については、身近な事例を活用した指導を行うことが効果的である。
		② アフリカ州の砂漠化	42.6			○	
	(2)	① アジア州の宗教分布	62.0	○	○		
		② フィリピンの宗教	38.4			○	
		③ イスラム教徒の生活	55.3			○	
	(3)	中国の経済的な問題	2点 33.5 1点 29.8	○	○		
(4)	アメリカの民族	66.7	○	○			
(5)	時差の計算	59.4	○	○			
【2】	(1)	九州地方の地形	83.2			○	(2)(3)産業を中核とした地域的特色については、背景にある地理的諸条件と関連付けて考えることが効果的である。 (4)自然環境の地域的特色については、生活や産業、災害などと深い関係があることを理解させることが必要である。 (5)地形図など縮尺の大きな地図については、地図と現地との対応関係をとらえる技能を高めることが大切である。
	(2)	中部地方の農業	2点 23.5 1点 31.7	○	○		
	(3)	関東地方の工業	26.2		○	○	
	(4)	東北地方の冷害	66.7	○		○	
	(5)	① 北海道地方の開拓	29.5			○	
② 地形図の読み取り		73.6	○	○			
【3】	(1)	弥生時代の文化	70.4			○	(3)奈良時代の日本については、大陸から文物や制度を積極的に取り入れたことが、その後の時代につながっていることを考えさせることが大切である。 (6)平安時代末から鎌倉時代にかけては、源氏の勢力が広がる過程を、地図を用いて理解させることが効果的である。 (7)文献等の資料については、読み取った内容から、当時の人々の生活について考えさせることが効果的である。 (10)幕府の政治改革については、財政の悪化などの背景や、改革の結果に着目させるとともに、それぞれの改革の特徴をまとめて、比較させることが効果的である。
	(2)	中国の甲骨文字	72.6			○	
	(3)	奈良時代の海外交流	42.2	○		○	
	(4)	浄土信仰	76.5			○	
	(5)	藤原氏と平氏の共通点	2点 22.7 1点 48.5	○	○		
	(6)	平安～鎌倉時代の戦乱	26.6	○			
	(7)	村の自治と土一揆	13.4		○		
	(8)	戦国大名の領国支配	34.7			○	
	(9)	ルターの宗教改革	60.3			○	
	(10)	江戸時代の政治改革	52.3	○			
【4】	(1)	絹の物価上昇	2点 16.8 1点 26.7	○			(2)歴史上の人物の学習については、社会の変革や歴史の形成に果たした役割について理解させることが大切である。 (4)欧米諸国のアジア進出については、複雑な国際情勢の中で、我が国がどのような対応をとったかを考えさせることが必要である。 (1)(5)(7)グラフ等の統計については、その数値の変化を読み取らせ、変化の背景を考えさせることが効果的である。 (8)戦後の経済については、石油危機等の歴史的事象が経済に及ぼした影響について考えさせることが大切である。
	(2)	福沢諭吉の思想	63.5	○		○	
	(3)	明治時代の政治のしくみ	42.5			○	
	(4)	日英同盟締結の理由	2点 24.8 1点 15.2	○	○		
	(5)	ワシントン会議の影響	56.2	○	○		
	(6)	大正時代の文化	63.5			○	
	(7)	世界恐慌後の経済政策	57.9		○	○	
	(8)	戦後の日本経済	43.7	○			
【5】	(1)	地域機構の比較	43.2	○	○		(1)国際機構については、国家間や組織間の経済的な格差があることに着目させ、国際社会における我が国の役割について考えさせることが大切である。 (3)財政については、財源の確保と配分という観点から、租税の意義と役割を考えさせることが効果的である。 (4)～(6)民主政治の仕組みについては、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づくさまざまな制度が運用されていることについて理解させることが必要である。
	(2)	ハザードマップ	83.3			○	
	(3)	累進課税	67.0			○	
	(4)	衆議院の選挙制度	74.8			○	
	(5)	日本の裁判のしくみ	73.9			○	
		三審制の成立理由	67.9	○			
(6)	① 三権と国民との関わり	56.4			○		
	② 三権分立の成立理由	60.5	○				
【6】	(1)	大分県の総人口の推移	64.2		○		(1)現代社会をとらえる見方や考え方については、地理的・歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かす工夫をすることが必要である。 (2)(4)雇用や労働条件の問題については、産業構造の変化や現代日本の特色(グローバル化、少子高齢化など)と関連付けながら考えさせることが効果的である。
		総人口の減少の理由	2点 20.7 1点 17.9	○			
	(2)	産業の空洞化	64.4			○	
	(3)	社会保障制度	80.1			○	
	(4)	雇用の問題	45.1	○	○		
(5)	直接請求権	51.6			○		

【評価の観点】 A：社会的な思考・判断・表現 B：資料活用の技能 C：社会的事象についての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど、語句記述問題の平均正答率が62.7%と、全体の平均正答率（54.7%）よりも高い結果となった。しかし、複数の知識を組み合わせなければならない文章の選択問題や出来事の並べ替え問題は、平均正答率が49.6%と低くなっている。知識・理解については、文章から該当する語句を答えさせるだけでなく、**複数の語句を活用して説明させる指導**が必要である。
- ② 図を読み取る技能を評価する問題は、平均正答率が66.5%と全体平均よりも高い正答率となった。特に、【2】(5)の地形図を読み取る問題では、地図記号や方角、縮尺の特徴を理解した適切な読み取りができています。しかし、【1】(5)の時差の理解を問う問題の出来が十分ではなかった。時差の計算は、我が国と世界各地との位置関係を理解する上で必要な技能の一つである。特に西半球と東半球の時差については、中学校数学科の第1学年における「正の数と負の数の必要性と意味」などの学習成果活用も含め、テレビのニュース番組を取り上げるなど、**身近な事例を活用した指導**を行うことが効果的である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

中学校社会科では、資料を読み取り、事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てることを各分野共通の目標としている。例えば【1】(3)で、二つの資料の特徴を読み取ったあと、それを「中国が抱える問題とその発生理由」として適切に表現する力を問う設問としたように、社会的事象の特色や事象間の関連を適切に思考・判断し、表現する力を問う設問を7問出題している。

(2) 解答結果とその分析

7問の平均正答率は41.2%と全体平均よりも低い結果となった。特に複数の資料から判断する問題（いずれも2点満点）では1点しか与えられていない解答が多くみられ、その理由は主に以下の2点であった。適切に表現するために、**どのような要素が必要か判断する力と、既習知識と結びつけ、筋道を立てて説明する論理的思考力**が足りていないことがわかる。

(例) 複数の事象のうち、一つの事象しか読み取れていない・・・【3】(5)で、「娘を天皇のきさきにした」ことは読み取れているが、「その子どもを天皇にたてた」ことが読み取れていない。

(例) 資料と関連した、既習知識が引き出せない・・・【6】(1)で、1955年～1970年における、大分県の人口が県外に流出した理由として、バブル経済をあげている。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 知識注入型の授業に陥ることなく、生徒が疑問を持ち「解決したい」「話し合いたい」と思えるような学習課題を設定し、事象を多面的・多角的に考察し、判断するとともに、表現する過程を重視した**問題解決的な学習を工夫**する必要がある。そのためには、単元全体を見渡して授業を構想することが大切である。
- ② 単元指導計画を作成する際は、教師が「教えなければならないこと（教えたこと）」を整理し、それを生徒の「学びたいこと（学べること）」へ教師の働きかけによってつなげることが大切である。また、問題解決をするために、**基礎的・基本的な用語等の知識や地図や表・グラフ等の資料を活用する技能を確実に習得**させることが必要である。
- ③ ゴールをイメージして授業を組み立てることにより、資料や発問の作成が可能になることから、最終的にどのような言葉を生徒から引き出したいのかをあらかじめイメージしておくことが大切である。**評価問題をあらかじめ作成**した後、授業を構想することも効果的である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのか実態を把握**したうえで、指導計画を作成することが必要である。
- ② 授業時に発問を投げかけたり、資料を読み取らせたりする機会を増やすことと、説明や発表の場を設けるなど**言語活動を充実させる**ことが必要である。
- ③ 中学校社会科の学習を踏まえ、**各科目の特質と相互の関連性を考慮**しながら、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視することが必要である。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([]内は誤答例)
				A	B	C	
【1】	(1)	① 正の数と負の数	97.1			○	②正の数と負の数③文字式の計算は前年度より得点率が3%程上がっているなど、基礎的・基本的な知識や技能は概ね身に付いている。一方、④文字式の計算は前年より得点率が10%程下がっている。分数形の文字式の計算と方程式の解法との違いや通分したときの符号のつけ方などを理解させるように指導することが必要である。④ $[x-7y] \left[\frac{x-y}{24} \right]$
		② 正の数と負の数	81.1			○	
		③ 文字式の計算	91.7			○	
		④ 文字式の計算	73.8			○	
		⑤ 平方根の計算	77.4			○	
	(2) 二次方程式	49.3		○		$x^2-6x=0$ から $x-6=0$ の形に変形しないようにするなど、二次方程式の解が一般的に二つあることに注意させる指導が必要である。	
	(3) 連立方程式	50.7	○			距離・時間・速さの数量の関係を表や線分図で表す活動が効果的である。	
(4) 資料の傾向の読み取り	67.9			○	複数のヒストグラムから代表値を比較し判断する活動に取り組ませることが大切である。		
(5) 確率		2点 69.6 1点 1.5			○	樹形図を利用する際に、起こり得る場合を順序よく整理し数え上げるように指導することが必要である。	
(6) 平行線と多角形の角の性質	38.7		○			図形の性質をもとに見通しをもって補助線をひく等の活動が効果的である。	
(7) 平面図形の作図		2点 28.7 1点 13.4	○			作図法に加え、図形の対称性や図形を決定する要素に着目する指導が必要である。	
【2】	(1) 関数 $y = a/x$ の a の値	68.9		○		図形と関数を関連付け課題解決に取り組む場面を設定することが大切である。また、得られた結果が設問の条件に合致するか判断することも大切である。	
	(2) 直線 AB の式	55.3		○			
	(3) 条件を満たす点の座標	8.3	○				
【3】	(1) グラフの読み取り	68.6			○	具体的な事象の中から取り出した二つの数量の関係が関数であると読み取る活動やその関数式のグラフを活用して問題解決をしていく活動を充実させていくことが必要である。	
	(2) 一次関数のグラフの作図	47.0		○			
	(3) 一次関数のグラフの活用	8.5	○				
【4】	(1) ア 規則性の発見	75.6			○	文字を用いた式で数量及び数量関係を捉え説明する活動を通して、文字式のよさや必要性についての理解を深めることが必要である。また、数学的な表現を用いた説明の際には、論理的に筋道立てて説明できるように考えさせることが大切である。	
	(2) イ エ オ	文字式を使った説明 事柄が成り立つ理由の説明	61.3				○
			2点 40.2 1点 9.9				
	(3) 文字式の活用	6.8	○				
【5】	(1) ア	三角形の相似の証明	3点 20.6 2点 7.1 1点 17.0		○	相似の証明の際には、対応する角が等しいことの根拠を明らかにして、数学的な表現を用いて説明する活動を充実させることが必要である。また、問題解決のために見通しをもって活動する場面を設定することも大切である。 (1) [直経といった誤字]	
		① 面積比と相似比	16.3		○		
		② 相似の活用	1.0	○			
【6】	(1) ア イ ウ	空間図形の底面と高さの関係	90.1			○	空間図形の底面と高さの関係といった直線と平面の位置関係の理解においては立体模型の観察等、具体的な考察場面を取り入れることが効果的である。図形を多様な視点から観察し、分析的に考察する活動も大切である。 (1) イ [CD]
			34.9	○			
			74.4		○		
	(2) 四角錐の体積	31.2		○			
(3) 立体の体積	1.5	○					

【評価の観点】 A：数学的な見方や考え方 B：数学的な技能 C：数量や図形などについての知識・理解

2. 知識・技能について

- ① 「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識・技能は概ね身に付いている。二次方程式については、解法や解の吟味等の確実な定着を図ることが必要である。
- ② 「図形」については、相似な図形の性質の活用についての理解を深める学習活動や錐体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ③ 「関数」については、必要な情報を読み取り適切な一次関数のグラフをかく力は概ね身に付いているが、関数 $y = ax^2$ 、反比例、一次関数などの基礎的な知識・技能の定着が大切である。
- ④ 「資料の活用」については、代表値と確率の意味やその求め方に関する基礎的・基本的な知識・技能が概ね身に付いている。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図（ねらい）

身近な事象を表やグラフを活用して分析し判断する問題や、図形についての基本的な知識や技能を活用して総合的に考察し処理する問題を通して、数学的な思考力・判断力・表現力をみることにした。

【3】「水槽の中の水量や時間などの数量関係について、グラフや式を活用して解決する問題」では、一次関数とそのグラフに着目して関数関係を正しく捉え、問題解決をしていくことで、思考力や判断力をみることにした。

【4】「一定の規則で並んだ複数の自然数の性質について考察する問題」では、予想された事柄が成り立つ理由を文字式を用いて説明したり、新たな性質を発見することで、思考力や表現力をみることにした。

【6】「三角柱と三角錐の体積の関係を考察し、体積を求める問題」では、底面と高さの位置関係を判断したり、複数の立体を組み合わせて体積を求めたりすることなど、多様な視点から考察することで、思考力や判断力をみることにした。

(2) 解答結果とその分析

【3】(3) では、新たな作業における二つの数量の関係を正しく捉えることが不十分であった。条件を整理し、数量関係の処理の仕方、判断の根拠などを数学的に考察する力を育成することが必要である。

【4】(2) では、根拠が明確に示されていないなど説明が不十分なものが多く見られた。具体的に性質を予想し成り立つ理由を考察させるなど、根拠を明確にし、筋道を立てて論理的に表現させることが効果的である。

【6】(1) イでは、空間における底面と高さの位置関係を正しく捉えることが不十分であった。(3) では、図1の三角柱全体を考察し、相似比や体積比を活用することが不十分であった。立体模型の観察等、具体的な考察場面を取り入れ、図形を多様な視点から考察し、思考・判断する力を育成していくことが大切である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域の学習内容と深い関わりを持つこともあり、より確実な定着が求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返す**ことが必要である。また、複雑で無目的な計算練習にならないよう留意することが大切である。文字式の活用においては、論理的に表現できているか、過不足なく説明できているかを吟味させる活動を意図的に設けることが効果的である。
- ② 「図形」については、**立体模型の作成やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。定義・定理・性質の理解を深めさせるとともに、図形に対する**直感的な見方や考え方、論理的に考察し数学的に表現する力**を身に付けさせていくことが大切である。
- ③ 「関数」については、身の回りで起こる具体的な事象に関心を持たせるとともに、それらを関数としてとらえ、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、関数関係を数学的な表現を用いながら**他者に説明するような場面**を意図的に設けることが効果的である。
- ④ 「資料の活用」については、目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取り、判断し、表現する力を身に付けさせていくことが必要である。また、**日常生活や社会における事象に関する問題解決**を重視し、**数学が生活に役立つことを認識**させることも大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 数量や図形に関する基礎的・基本的な**知識・技能の確実な定着**を図る観点から、内容の系統性を重視しつつ、中学校での指導内容を十分把握し、**習熟の程度に応じた反復**による指導などが必要である。
- ② **思考力・判断力・表現力を育成**していく上で、根拠を明らかにし筋道を立てて**体系的に考え表現**すること、数式・グラフ・図・表などを適切に用いて**手順や手法をわかりやすく説明**したりすること、互いに考えを表現し伝え合ったりすることで自分の考えをよりよくしていくことなどの**言語活動の充実**を図ることが必要である。
- ③ 「課題学習」においては**生活と関連付けた生徒の関心や意欲を高める課題**を設定し、課題の理解、結果の予想、解決の方向、過程の振り返りなどの数学的活動を生かした指導を一層充実させ、**主体性を持って多様な人々と協働し問題解決に取り組む態度**を育成していくことが大切である。

理 科

1. 問題の項目と正答率										
大問	小問	項目	正答率 (%)	分野	評価の観点			特記事項 (誤答例等)		
					A	B	C			
【1】	(1)	湿度表の規則性	73.4	地学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	湿度が乾球と湿球の差に関係するという基礎的・基本的知識があれば解ける。しかし、知識がなくても表から数値の規則性を考察し、判断できる指導も合わせて必要である。		
	(2)	気温、湿度の変化の特徴をグラフからの読み取り	55.4		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	(3)	データ処理と水蒸気量の計算	22.7		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		桁数が指示通りでない誤答や計算ミスが目立つので、小数の計算をする機会が必要である。また、与値どうしを割った誤答もあり、飽和水蒸気量を公式として教えるのではなく、その概念を理解させる指導が求められる。	
	(4)	前線の特徴の構造	51.8		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		暖気は寒気より密度が小さく上昇すること、異なる性質の空気は混ざりにくいことという前線面に対する見方・考え方を育てる必要がある。	
	(5)	偏西風の影響	38.9		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		表3を読み取れば、偏西風が西へ吹くという誤答は防ぐことができる。知識に頼らず、図や表から読み取る考察力を養うことが大切である。	
【2】	(1)	身のまわりの酸化反応	73.6	化学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	酸化に関する知識や概念の定着はもちろんのこと、実験で得た値のみをグラフにプロットさせること、測定値から適切な目盛を設定することなど観察・実験の結果を整理し、解釈して表現する指導が必要である。		
	(2)	質量変化のグラフ化	22.7		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	(3)	酸化反応の反応比の計算	34.3		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		化学反応の量的関係だけでなく、比を用いた計算は多くの分野で高校でも求められるので、比の考え方や計算方法の指導が必要である。	
	(4)	混合した金属の成分量の計算	18.5		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	(5)	二酸化炭素によるBTB液の色の变化	59.2		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		二酸化炭素が水に溶けると酸性を示すこと、BTB液が酸性では黄色に変化変わることの2点は、基礎的・基本的知識として大切である。	
	(6)	銅、マグネシウム、炭素の比較	14.7		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		二つの実験結果から論理的に組み合わせ推論する力を身につけられるよう、探究的な学習活動の充実が求められる。	
【3】	(1)	被子植物と裸子植物の共通の特徴	59.1	生物	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	裸子植物には「がく」「花弁」「子房」の3点がないことは基礎的・基本的知識として定着させることが大切である。		
	(2)	優性と劣性の混在の状態	48.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		Aとaの交配の組み合わせの知識と「図1」のさやを関係付けてとらえ、考察することが求められる。	
	(3)	優性形質の出現率	8.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		自家受粉の概念を理解させたいうえで、比の考え方や計算方法の指導が必要である。	
	(4)	①	金属球の自由落下運動		55.8	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	落体の運動については、速さの時間的変化のグラフのみ教科書に掲載されている。従って、図3から落下距離を読み取りグラフの概形を表現する力が求められる。
		②	果実の形状による種子の運ばれ方		66.6	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	種子の運ばれ方や種子の中の養分の役割は成長を助けるものであることは、基本的概念として抑えたい。発芽条件に関する誤答例が目立つ。
		③	種子が大きいことの利点		14.9	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
【4】	(1)	ばねの自然長の計算	76.0	物理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ばねののびやつり合いの学習の際に、生徒自身が疑問を持ち、仮説を設定し、実験による検証活動の中で分析する能力を養う必要がある。さらに力の図示をさせ、説明させる学習活動などを通して、ばねの直列と並列における力の受け方の違いについて深く考察させることが大切である。		
	(2)	両端におもりをつけたばねののびの計算	3.1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	(3)	電磁石によるばねののびの変化	11.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	(4)	ア	2つのばねの力のつりあいの説明		37.3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	「つりあっている」という誤答例が目立つ。つりあいは1物体に、作用・反作用は2物体間に注目することを抑えたい。
		イ	2つのばねの力のつりあいの計算		4.4	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	伸びが重さに比例、「ア」の事柄、装置から全体の伸びを読み取るという複数条件を結び付け判断する思考力が求められる。
【5】	(1)	①	側根の役割	63.5	生物	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	根のつくりを知識として定着させるだけでなく、基本的なはたらきと関連付けて総合的な理解を図ることが大切である。	
		②	維管束	66.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		双子葉類の道管と師管が輪のように並ぶことやその位置を確認させるために、実験やICTなどで茎の断面図を観察させる活動が求められる。また、葉の構造は、光合成・蒸散と関連させて考察し、総合的に理解させることが大切である。
		③	光合成	80.1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	(2)	①	斑状組織についての理解	64.5	地学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	「火成岩」「火山岩」等の岩石の種類に言及した誤答例が目立つ。また、火山岩と深成岩のそれぞれに分類される岩石の知識の定着度が低い。言葉の丸暗記でなく、表にまとめて比較し、系統立てて整理させる必要がある。	
		②	花こう岩の知識	46.5		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		③	結晶化と時間の相関関係の考察	37.1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		周知の事項と実験の結果を関連づけて考察し、筋道を立ててわかりやすく表現させる学習活動を多く取り入れると効果的である。
	(3)	①	塩化水素の電離式を表記	62.3	化学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	電離式の大文字と小文字の区別ができていないものや、→のないものなどの誤答が目立つ。	
		②	電極から発生する物質の化学式	32.3		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		電池における電子の授受の仕組みや、亜鉛が溶けたときの放出電子の個数などを理解させるためには、モデルなどでイオンを表し、系統立てて論理的に指導する必要がある。
		③	反応における電子の個数の計算	36.5		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		④	電熱線の抵抗値	56.0		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		オームの法則は実験やモデルを使って十分に概念の形成をさせたい。さらに実験を行い、mやkの扱いなど単位を扱うことも大切である。
	(4)	①	電球の消費電力	35.9	物理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	見慣れないグラフでも、正しく数値を読み取り、分析し解釈できるような探究活動を積極的に行うことが求められる。	
		②	回路図の描画	12.2		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		電球を直列にした誤答が目立つが、「電球の一方は外しても、もう一方は点灯する」という条件を正確に捉えることが大切である。
③		ヒーター部分のくもらない理由	58.5	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	今回の電気製品の原理のように、学習したことと日常生活や社会との関連性に気づくことができる授業が求められる。		
④		ヒーター部分のくもらない理由	58.5	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			

2. 知識・技能について

- ① 基本的な知識は定着しているようだが、【3】(1)や【5】(2)②に見られるように、**分類やグループ分けされる内容の知識・理解が曖昧な生徒が多い**。知識を定着させるために、分類表を作らせたり、効果的にICTを用いたりして、**複数の情報を整理する力**を養う必要がある。
- ② 小数の計算の技能が高くない生徒も見受けられる。特に、【1】(3)の簡単な割合の考えを用いたうえでの**小数の掛け算の正答率 22.7%**に象徴される。授業の中で、**基本的な計算技能の練習をさせる**必要がある。また、比の考え方を用いる【2】(3)(4)、【4】(3)(4)などの正答率も低い。**割合や比の概念**を理科の授業でもしっかり押さえる必要がある。

3. 思考力・判断力・表現力について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

【4】(3)(4)は、力の大きさとばねの伸びの実験を通して、力のつりあいと作用・反作用の基本的知識とともに、**二つの知識を活用して力の図示をしながら順序立てて組み立てる論理的思考力と、複数の条件を整理して分析的に見取る能力**をみるために出題した。特に(3)については、ばね定数の違う二つのばねが受ける力をそれぞれ図示することで、直列つなぎの伸び方に気づく思考力が必要である。(4)については、宇宙空間でも体重を測定できるばねの有用性を確認するとともに、(4)アでは力のつりあいと作用・反作用の**違いを明確にして整理し、表現する能力**が求められる。(4)イでは装置から伸びを読みとり、**複数の事柄を関連付けて分析する能力**が必要である。

(2) 解答結果とその分析

正答率は(3) 11.0%、(4)ア 37.3%、イ 4.4%であった。フックの法則の理解(1) 76.0%と比較すると低い。分析的に見取る判断力をみた問いの正答率が低く、特に(4)イが4.4%にとどまったことも鑑みると、以下のようなことが言える。

- ・ 力のつりあいと作用・反作用の違いを考える活動では、**実験で確かめるだけでなく力の図示**を行うことで、**目に見えない現象などの事物の一般化・抽象化**をさせ、思考を深める指導が必要である。
- ・ ペアワークやグループ活動では、互いの**考えを発表しあうことで知識が段階を経て整理**され、複数の条件を**分析的に見取る判断力**を身につけることができる。単元の中で計画的にそのような活動を取り入れる必要がある。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① ある事象の観察や実験の結果を考察する際に、科学的な見方・考え方を働かせて、比較したり関係付けたり条件に目を向けたり推論したりする視点をもって、分析し解釈できるようにする時間を授業の中に位置付けていく必要がある。
- ② 自然の事象には、第1分野と第2分野の両方に関わるものが多くある。そのため、二つの分野を**横断した総合的な見方・考え方**ができるようにすることが大切である。
- ③ 日常生活や他教科等との関連を図るなど、生徒の知的好奇心や探究心から目的意識をもった観察・実験を行うことを通して、**理科を学ぶことの意義や有用性を実感する学習経験**を設定していく必要がある。
- ④ 独立変数と従属変数が複数ある実験の結果を分析し解釈する際は、全体の傾向を読み取るとともに一つの独立変数から、どのように整理し分析していけばよいかについて**生徒自身が見通しをもって取り組める学習場面**を設定することが必要である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **入学時における生徒の知識・理解の到達度**や計算の技能、複数の事柄を関連付けて**思考・判断する能力、それら表現する能力の度合いは、各高等学校において様々**である。従って以下の指導が求められる。
 - ・ 高校入試の正答率調査や誤答例を分析する中で、苦手な分野、計算技能の到達度、思考力・判断力・表現力の度合いなどを把握する。そのうえで、**生徒の実態に即した授業のねらいを明確**にすること。
 - ・ 中学時の内容を互いに補完するために、**生徒どうしの対話を大切に活動**を設けること。
- ② 単元全体を見通し、「いつ」「どの力を」「何の教材で」「どういう活動で」身につけさせるのかを整理することで、生徒は今の状況を把握し、方向性が明確になり、学びが深まる。そのためには、**評価規準を具体的に定め、それらを段階別に評価する評価基準を具体的に設定**したうえで、以下の指導が求められる。
 - ・ 一つの法則や知識を導きだす過程の中で、**主体的に思考させるために効果的な発問**を計画的に行う。
 - ・ 演示実験で疑問を投げかけたり、仮説検証実験で探究的な活動をさせたり、獲得した原理や法則の確認実験をさせたりと**効果的に実験を位置づける**ことで、科学的なものの見方・考え方を養い思考力を深める。
 - ・ 教員との対話、ペアワークやグループ活動など**協働活動における対話**によって、**複数の知識どうしが結びつくことや、間違った固定概念に気づく**ことができる活動を取り入れる。
 - ・ 知識や概念の系統立てた整理、法則の活用等を考えたり、説明したりする学習活動を取り入れる。

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([]内は誤答例)				
				A	B	C					
【1】	A	1番	インターネットやメールで使うもの	93.4	○	○	平易な英語を聞いて、内容に合った絵を選ぶ問いの正答率が高い。相手への応答については、相手の忠告や提案に適切に応じる力が必要である。				
		2番	説明に合うイラスト	86.4							
	B	1番	アドバイスに対する応答	72.7							
		2番	提案に対する応答	41.4							
	C	1番	When で始まる疑問文に対する答え	67.8							
		2番	Why で始まる疑問文に対する答え	39.9							
		3番	What で始まる疑問文に対する答え	63.2							
4番		Why で始まる疑問文に対する答え	54.7								
【2】	A	(1)	a	ちらしに対応した語句の表現	64.7	○	○	[for / fore / Four] [basketball / basketball]			
			b	ちらしに対応した語句の表現	71.4						
	(2)	どうすればその試合を見ることができかをたずねる表現		2点 : 29.4 1点 : 13.6							
	B	(1)	a	スライドに対応した語句の表現	71.5				○	○	[teacher / teacher] [Tuesday / tuesday / Tuesday]
			b	スライドに対応した語句の表現	65.1						
		(2)	ask+目的語+ to 不定詞を使った表現		48.9						
(3)	発表内容から判断される教室配置		67.0								
【3】	(1)	カメラを持ってくることを依頼する表現		3点 : 26.2 2点 : 6.9 1点 : 15.8	○	○	自分の気持ちを相手に正しく伝える力が不足している。場面や状況にふさわしい表現を実際に使わせて身に付けさせる必要がある。 [Can I-?]				
		(2)	①	料理に関する内容で手伝えること				3点 : 29.0 2点 : 5.4 1点 : 17.3			
	②		料理以外の内容で手伝えること	3点 : 24.7 2点 : 6.6 1点 : 19.8							
	(3)	①	日本を訪れるのに最もよいと思われる季節	77.0							
		②	その季節が日本を訪れるのに最もよいと思う理由	3点 : 26.7 2点 : 15.9 1点 : 20.2							
		③	その季節が日本を訪れるのに最もよいと思う理由	3点 : 17.0 2点 : 16.1 1点 : 20.4							
	【4】	(1)	グラフと本文の内容の読み取り					84.6	○	○	環境問題についてのポスターセッションの内容・要点を、英文・写真やグラフからの情報をもとに、的確に読み取る力をみる設問である。複数の資料や情報を組み合わせて内容を理解する力が求められる。生徒の興味・関心に応じて様々な題材を変化をもたせて取り上げるなどの指導の工夫が必要である。 (4)[recycle waste such as newspapers]
(2)		空欄に合う内容(語句)		17.2							
(3)		下線部の理由		67.4							
(4)		英問英答		7.4							
(5)		a	概要把握		62.8						
	b	概要把握		41.3							
【5】	(1)	空欄に合う内容		62.7	○	○	物語文においては、物語の展開とともに、登場人物の心情の変化を日頃から意識して読むとよい。				
	(2)	空欄に合う内容		36.9							
	(3)	空欄に合う内容(語句)		56.7							
	(4)	対話の流れに合う応答		18.5							
	(5)	本文の内容と一致する英文		55.4							
	(6)	a	概要把握 (smiling)					40.0			
b		概要把握 (mind)		18.4							

【評価の観点】 A : 外国語表現の能力 B : 外国語理解の能力 C : 言語や文化についての知識・理解

2. 知識・技能について

① 外国語表現の能力【2】、【3】、【4】(4)、【5】(4)(6)

自分の考えを英語で積極的に表現しようとする姿勢は身に付いてきている。自分の言いたいことを相手に的確に伝えるために、文構造や語法を理解して正しい文を書くことが求められる。

② 外国語理解の能力【1】、【2】B(3)、【3】(2)、【4】、【5】

「聞くこと」に関しては、自然な口調で読まれた平易な英語を聞いて情報を聞き取ることはできているが、まとまりのある英語を聞いて、話の概要や要点を理解する力は十分ではない。「読むこと」に関しては、大まかな流れをつかみながら読み取ることはできるが、文脈を理解し特に中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ることが十分にできていない。

③ 言語や文化についての知識・理解【2】

日常生活で用いられる基本的な語彙や文構造の理解がやや不十分である。

3. 思考力・判断力・表現力等について

(1) 思考力・判断力・表現力等を問う設問の意図(ねらい)

思考力・判断力・表現力を問う設問については、【2】～【5】の中にバランスよく配置しているが、ここでは、特に【3】について述べる。

【3】(3)は、中学校で実施されている言語活動を充実させた指導を踏まえ、特に「書くこと」についての力をみた。英語の授業でアメリカの中学生から来たメールに返事を送るという設定で、「日本を訪れるのに一番よい季節」という質問について、季節を提案した上でその理由を二つ考え記述するものである。単に質問に対して単純に応答するのみではなく、理由を併せて記述することは、言語に関する能力を育成するためには必要である。ここでは語句や表現、文法事項等の知識を活用して自分の考えを的確に表現する力をみた。

(2) 解答結果とその分析

理由を書く問題の正答率は昨年度並みであった。自分の考えを積極的に書こうとする姿勢は身につけてきている。今後は、自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書く力、賛否やその理由等について語句や表現、語と語のつながりなどに注意して正しく書く力がさらに求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

4技能をバランスよく育成し、以下のような指導を通して、統合的なコミュニケーション能力の基礎を養うことが求められる。

- ① CAN-DOリストの設定により、付けたい力を明確にするとともに、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう指導する。
- ② 教科書の題材や言語材料を生かした言語活動を通して、既習事項を自分の言葉として定着させる活動に取り組ませる。
【例】・事実についての表現のみでなく、感想、賛否やその理由を表現させる。
・聞いたり読んだりした内容について、問答や簡単なスピーチをさせる。
・自分の考えや気持ちなどを正しく伝えたり、意見を述べ合ったりさせる。
- ③ 「読むこと」の指導においては、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたり、また設問の仕方に工夫をしたりして正確な読み取りのための配慮を行う。
- ④ 「聞くこと」の指導においては、質問や依頼などを聞いて適切に応じることができるよう、また、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取れるよう、場面の設定に工夫をしながら、幅広く言語活動を行う。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、学習指導要領の趣旨に則し、以下の点に留意した指導が求められる。

- ① 外国語科の目標は、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成である。高校においては、中学校における学習の基礎の上に、聞いたことや読んだことを踏まえた上で、コミュニケーションの中で自らの考えなどについて内容的にまとまりのある発信ができるようにすることが求められる。文法指導においては、言語活動と一体的に行うようにすることが大切である。
- ② 指導と一体化した評価については、四つの観点別に妥当性・信頼性のある評価を行うことに留意する必要がある。特に「外国語表現の能力」については、パフォーマンステスト(音読やスピーチ、自由英作文等)が不可欠である。また、CAN-DOリストの活用によって、生徒が身に付けるべき能力を明確に提示し、達成状況を把握することによって指導と評価の改善を行うことが必要である。
- ③ 中学校における学習が十分でない生徒に対応するため、身近な場面や題材に関する内容を扱い、中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行させることが必要である。中学校・高校の外国語科教員間で互いに授業参観や情報交換をするなどして、中高の連携を一層密にしなければならない。